

# 経営比較分析表

広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有効率(%)
-	該当数値なし	30.33	94.57

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
54,622	778.14	70.20
處理区域内人口(人)	處理区域面積(km <sup>2</sup> )	處理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
16,474	4.59	3,589.11

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成27年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

●収益的収支比率、企業債残高対事業規模比率  
平成27年度は、収益的収支比率が8.7%程度であり、昨年度に比べ5.3ポイント改善している。主な要因は、支払利息の減少である。企業債残高対事業規模比率は、企業債残高の減少に伴い平均値を下回り、昨年度に続き改善傾向である。

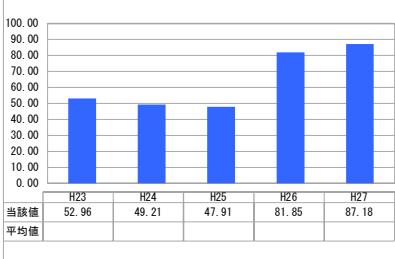
●経費回収率、汚水処理原価  
平成27年度は、経費回収率は昨年度に比べ汚水処理費用が減少したため平均値を上回り、汚水処理原価は、昨年度に比べ6.2.4円改善している。今後も、経常的経費の節減と適正な経費回収に努める。

●施設利用率、水洗化率  
平成27年度は、施設利用率が昨年度に比べ9.9ポイント悪化している。主な要因は、三次水質管理センター増設による処理能力向上によるものである。水洗化率は平均値を下回っているものの、接続人口が毎年増加しているため年々向上している。今後も、充当可能財源を確保し、計画的な拡張事業や更新事業を図りながら、水洗化率向上に努める。

### 2. 老朽化の状況について

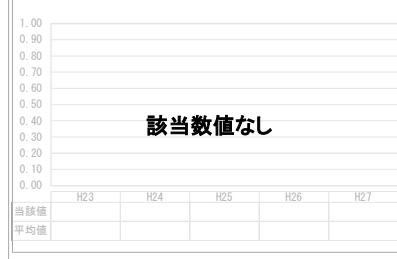
平成3年から下水道工事に着手し、平成12年から供用開始しているため、管渠の老朽管更新を行う時期ではないが、計画的な更新に努める。

①収益的収支比率(%)



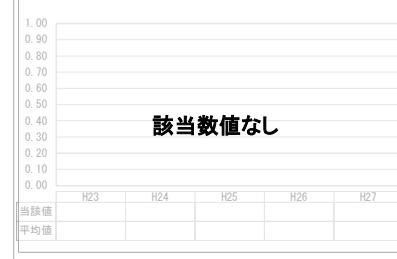
「単年度の収支」

②累積欠損比率(%)



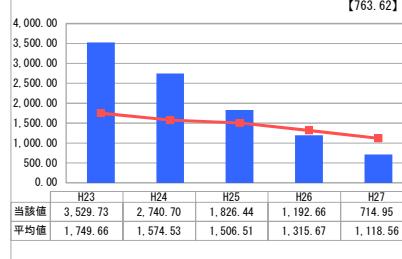
「累積欠損」

③流動比率(%)



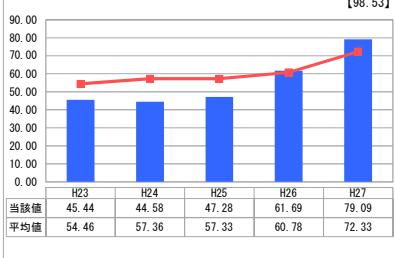
「支払能力」

④企業債残高対事業規模比率(%)



「債務残高」

⑤経費回収率(%)



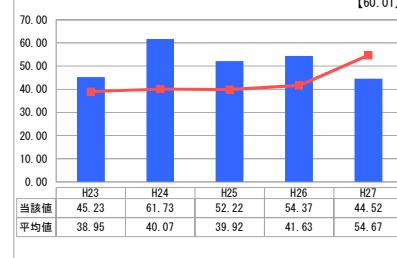
「料金水準の適切性」

⑥汚水処理原価(円)



「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)



「施設の効率性」

⑧水洗化率(%)



「使用料対象の捕捉」

①有形固定資産減価償却率(%)



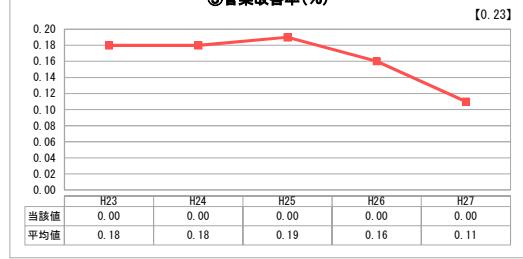
「施設全体の減価償却の状況」

②管渠老朽化率(%)



「管渠の経年化の状況」

③管渠改善率(%)



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

### 全体総括

面整備率が未だ6.4%と低いため、現状では施設利用率や水洗化率が適切な水準に達していない状況にある。

今後は、公営企業会計化へ向けて資産を整理し、施設効率の改善や料金体系の見直しを行いながら、計画的な事業展開に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。